改訂版

国本 みどころマップ

歩いてみて！

走ってみて！

いいところ国本！









令和６年３月改訂

国本地区づくり振興会

編集・発行

●自然や文化財の保存に配慮をお願いします。

●敷地内に入る場合は事前の申し込みが必要です。
「※問い合わせ」の表示のない時は、国本地区市民センター
TEL 028-665-2942
問い合わせ先：国本地区市民センター

利用上の注意

♣低山ハイキングを楽しみませんか



国本地区には低山ハイキングを楽しめる山があります。「本格的な登る喜びの目信はかけど、山歩きの魅力を体感したい！」と思っている人にお勧めです。３まんちく村北側の男抱山と富士山、鍵脚の方は羊蔵山から羽黒・土平山へ足を延ばすのもいいでしょう。また、鞍掛山もお勧めです。近場にある１時間もあれば登れてしまうようなちょっと低いけて、頂上や大岩からの眺めや山歩きを楽しんでほしいと思います。

♣ツーリングで地区をまわろう



３まんちく村から大谷を周回したツーリングを楽しみませんか。また、この地図上の史跡を訪ねるハイキングもおすすめです。チェックも用意しました。ぜひこの地図を参考に楽しんでください。



岩原城裏から見た景色


富士山と男抱山


男抱山からの眺望


栗谷沢ダム


鞍掛山大岩からの眺望


自性院


神郷地区の薬師堂の伝統行事

モデルコース

1 国本地区市民センター発着（ハイキングコース）
- Ⓐ 大堀館跡１・２号～今宮神社～野州人車軌道跡～藤本館～岩本の摩崖仏
- Ⓑ 岩本の摩崖仏～だるま岩～岩原城堀跡～駒馬が原～藤本館
- Ⓒ 岩本の摩崖仏～二ヶ山遺跡～日枝神社～新里三区天棚～ろまんちっく村～～大堀館跡１・２号
- Ⓓ 若山農園～西弁天沼～光明寺～静桜～東弁天沼～六所神社～～宝木智賀都神社（宝木用水）

2 ろまんちっく村発着（ハイキングコース）
- ⓐ 天王寺遺跡～新里三区天棚～橋くぐり地蔵～日枝神社～二ヶ山遺跡～～藤本館～野州人車軌道跡
- ⓑ 藤本館～だるま岩～岩本の摩崖仏～大堀館跡１・２号～今宮神社
- ⓒ 男抱山～女抱山　【足を延ばし】半蔵山～羽黒山～土平山へ
- ⓓ 豆田川沿い
  栗谷沢・茗荷沢・姿川沿い（サイクリングコース）

3 国本西小発着（ハイキングコース）
- ① 国本西小～雨乞山～二ヶ山遺跡～国本西小
- ② 国本西小～鞍掛山（鞍掛山神社）～国本西小


ろまんちっく村


ろまんちっく村　ポケットパーク


藤本館


滝明寺跡（高橋家墓地）


東大堀の伝統行事「辻切り」


農業試験場前の桜


藤岡の分水堰


東弁天沼周辺


光明寺


千九夜碑


ツーリング


橋供養碑


長林寺


宝木用水（手掘り跡）


西弁天沼周辺

悟理道の歴史をつなぐ伝統行事と神輿

悟理道の歴史をつなぐ
伝統行事と神輿【D5】
岩本観音と地域の伝統行事【D4】
東大堀の伝統行事「辻切り」【C4】
仁良塚の彫刻屋台　【D5】
神郷地区の薬師堂の伝統行事【B3】

文化財
神社等
碑
自然・植物・景観
水に関係する
遺跡・跡
サイクリングコース
ハイキングコース

500m　0　500　1000　1500
電子地図25000（国土地理院）を加工して作成

鞍掛峠の道祖神 [B2]




道祖神は村などの境界に建てられ、悪霊の進入を防ぐといわれている。

このご神体は、宇都宮市と日光市の市境に建ち、高さ1.6m直径0.5mで表には「道祖尊神」裏には「天保10年（1830）と刻まれている。これ程に大きなご神体は全国的にも少ない。

橋くぐり地蔵 [B2]




お堂の前にある橋を３回くぐってお参りすると「子どものはしかが軽く済む」と言われ、以前は地元だけでなく遠方より子どもの健康を願い、赤ん坊をおぶった方が参拝する姿がよくみられた。

宗門獅子舞 [B3・C3]



この獅子舞は平安時代の後期、藤原宗円ゆかりのものとして伝えられている。獅子頭をかぶり舞うもので、戦勝祈願・五穀豊穣・悪霊退散などの願いをこめて奉納される。笛の音に合わせて、腹に付けた小太鼓を打ち鳴らしながら雄２匹、雌１匹で舞う一人立三匹の獅子舞で、現在年２回、お盆（８月16日）、８月の最終日曜日に奉納されている。

岩本の磨崖仏 [D4]



磨崖仏は岩壁に２体彫られ、左が地蔵菩薩像、右が馬頭観音像である。

地蔵菩薩は、お釈迦様が亡くなってから弥勒菩薩が現れるまで無仏の世界にあって人々を救ってくれた仏様。馬頭観音は馬によって代表される家畜全般の供養・健康祈願のために造られたものであり、下野三十三観音札所の結願（三十三番目）となっている。また、境内には生駒神社が祀られており、江戸時代の神仏習合のあとがうかがえる。

新里三区天棚 （※問い合わせ） [B3]




この天棚の型式は「突き出し型漆塗彩色彫刻天棚」と称し２階建て、江戸時代末期から明治初期に建造されたものと伝わる。天棚とは１階が「囃子場」、２階は日天・月天をはじめ八百万の神仏を祀る「祭壇」で五穀豊穣・風雲順調・家内安全を祈る天祭行事を行なう施設である。この天棚には多くの彫刻が施され、特に１階の組子障子の彫刻は市内にある天棚の中でもその豪華さは抜きん出ており、国本に誇る民族文化遺産である。間口284.5cm・奥行465.8cm・高さ438.6cm。

仁良塚彫刻屋台 （※問い合わせ） [D5]



この屋台は伝承によると、江戸時代の安政２年（1855）ごろ、念願であった「宝木用水開削」が目前で、村人の機運を高め団結と絆の促進にと天棚が造られた。その天棚を大正13年（1924）に唐破風・紅梁・彫刻部分を利用し屋台に改造し、歴史を刻んできた屋台も随所に劣化と破損が見受けられたことから、仁良塚自治会は永年積み立てた浄財等を利用し平成24年から平成25年（2012～2013）に彫刻極彩色塗替と彫刻の補刻を完了させ、優美な姿の屋台に甦った。なお、この屋台は仁良塚大杉大明神祭の付け屋台とし位置づけられている。

鞍掛山神社 [B1]




神社本殿は鞍掛山中腹の「お穴」と呼ばれる洞窟に祀られている。山頂に奥の院を建立し、神社として整ったのは江戸時代の中期と伝えられる。

信仰の対象は雷・雹・風水害・害虫除・五穀豊穣・家内安全である。

戊辰戦争で宇都宮城が幕府軍の攻撃により落城の折、城主戸田忠恕は城を脱出し、「お穴」に避難したと伝わる。

岩原神社 [D3]




この神社は、拝殿と本殿がある一般の神社のように見えるが、よく見ると本殿の後ろに大きな岩があることがわかる。平地に忽然と高く突き出て、あたかも「だるま様」に似ている事から「だるま岩」と称し、地元の人々が信仰心を抱き神社のご神体として崇めてきた。昔から「岩座（いわざ・いわくら）と言い、「神様が降臨する場所」と考えられてきたことも神社がこの地に造られた大きな理由の一つである。

日枝神社 [C3]



新里山王に建つ日枝神社は、永保元年（1081）10月28日に永保元年初代城主といわれる藤原宗円により、近江国（現：滋賀県）滋賀郡日枝山王大権現が勧請されて以来の歴史がある。旧国本村時代には村の指定村社であった。

折本大般若経600巻（栃木県指定文化財）が伝えられる他、宇都宮市指定無形文化財の宗円獅子舞が奉納されるなど、地域に根付いた存在となっている。

宝木智賀都神社 [D5]



神社の沿革は西原新田十カ村の内、足次・高谷林・藤岡・仁良塚・西岡の五カ村が協力して安政６年（1859）６月３日に宝木用水の完成を記念して、田川からの取水口近くに小さな石の祠（智賀都神社の分霊）が祀られた。その後明治20年(1887)12月、宝木に徳次郎智賀都神社の分霊を勧請し「宝木智賀都神社」と命名し本殿を鎮座した。明治40年(1907)６月12日、神格を栃木県知事に出願し、同年７月５日に社格が許可された。祭神は宝木用水開削功労者と智賀都神社の分霊が合祀されている。

今宮神社 [C4]



建立は正暦３年（992）で日光二荒山神社より御祭神「大己貴命」を勧請し、鎮座以来千年余を経過する。

代々、宇都宮城主からの崇敬厚く、秋の大祭時には城主より幣帛料の寄進もあり江戸時代には正一位の神格を授かる。戦前には国本村から幣帛料を受けるなど地域からの崇敬を集める。人々の安寧を守るため、毎年11月３日の例大祭、３月第一日曜日の春祭（祈年祭）11月最終日曜日の献穀祭（新嘗祭）が執り行われる。

星宮神社 [D6]



野沢の地に鎮座する星宮神社の創建は、江戸時代中期の延享３年（1746）で、主祭神は磐裂神・根裂神が祀られている。磐裂神は岩を裂き、根裂神は木の根をも裂く程の凄まじい威力を持つ神で、新開墾に際し産土神として創請したものと言われる。境内には八坂神社・水波野売大神・倉稲魂大神の配神が祀られている。

高龍神社 [D3]



この神社は江戸時代中期に建立されて以来、地域住民の氏神様として敬われてきた。主祭神は水害・干ばつ等から農業地帯を守る、水の神「高龗神」である。

社殿が老朽化したため、平成17年（2005）氏子により改修され、石屋根は建立当時のものを使用し、木造部分は新築し復元された。祭礼は毎年11月の第一土曜日前夜祭・日曜日に祭礼・祭典が行なわれる。

また、この高龗神社は宇都宮市内で３番目のパワースポットに位置付けられ、参拝者も多く訪れている。

宝国神社 [E5]



宝国神社は、仁良塚・笹理道・足次・西岡・山崎の鎮守を合祀し、明治43年(1910)12月出願し同月許可され、明治44年（1911）５月21日各字より遷宮した。

主祭神は伊耶諾命・伊耶冊命で、配神は天照皇大神・素盞嗚命・大巳貴命・事代主命・少名彦命・日本武命・倉稲魂命・火産霊神などが祀られている。歳月は毎年１月23日・記念祭は旧歴６月14日。

悟理道の水神社 [D5]




悟理道は寛文10年（1670）ごろ、西原新田十カ村の一つの村として誕生した。村は高台にあり農耕に必要な水を得るのに大変苦労した。そこで、主祭神「川神霊」を水神社として祀ったと伝えられる。時代が下り文正時代になって水田を開くための用水路を田川沿いの「金井用水」から分岐する計画を３次事業として行ない、水不足を解消した。

大正３年(1914)から始り大正14年（1925）に完成する。水の恵みに感謝し功労者たちの名を刻み現在の水神様が建立された。

六所神社 [D5]



創建は、江戸時代前期の寛文11年（1671）下野国南部の藤岡村より西原新田に移住した人々が先住地の氏神六柱を勧請し六所神社と名付けたと言われる。主祭神は伊耶諾命・伊耶冊命。配神は天照皇大神・素盞嗚命・大巳貴命・事代主命が祀られている。例祭は年２回で10月10日(天王祭)・11月23日（内日祭）。

八幡神社 [B3]



創建は不明であるが、手水に刻まれた「天保」の文字から江戸時代に遡ることができる。主祭神は応神天皇（第15代天皇）で、殖産興業の神様として新開拓地に多く祀られている。例祭は11月第１か第２日曜日に行なわれている。

十九夜碑 [C3]



十九夜碑は、月待信仰で十九夜講中が建立したものである。他には十六夜碑・二十三夜碑・巳待塔などがあるが、栃木県内では十九夜碑が一番多くあると言われる。十九夜講中は、大字単位で女性のみの集まりとして成り立っており、一般には安産・子授けなど女性特有の信仰である。この十九夜碑は、明治17年（1884）に建立したもので、石造の蓮弁の上部に如意輪観音を丸く浮き彫りにして、中央部に大きく「十九夜」と彫り込んでいる。

岩崩団吉の碑 [D5]



団吉翁は天保12年（1841）仁良塚の名主、第８代長左衛門団蔵の長男として生まれ、幕末の混乱期から明治、さらに20世紀初頭にかけて活躍した。父団蔵と共に19歳にして宝木用水開削に携わる。後に用水の水量不足を解消するため二宮堰取水口の石水門設置や改良工事を行ない、さらには江曽島農民の水不足を救うため細谷・江黒を通す「新川」の基礎作りに貢献した。この顕彰碑は、第16代栃木県議会議長として県政に尽力すると共に、地域経済発展などに貢献した功績を称え国本村議会一致の下、大正14年（1925）に建立された。

雨乞山 [B2]



民話で知られる雨乞山は、新里丘陵の南端にそびえ標高333mの山で、山頂部には中世の城跡（見張所）と考えられる遺跡がある。また、東西の尾根沿いの道にはそれぞれ数ヵ所にわたって、石積と堀切の痕跡と思われるものがみとめられる。なお、ここから産出された安山岩は、旧栃木県庁の建設にも使用され「県庁石」と言われた。

美しい双耳の峰「男抱山と富士山」 [B4]

東峰を男抱山・西峰を富士山と呼ばれ、東は徳次郎町西根、西は新里町丙に位置する。それぞれの山にはそれぞれの神社が祀られ江戸時代から信仰の山として崇められている。男抱山の山頂には男抱山神社があり、主祭神は「男抱の神」（縁結びの神）で寛政５年（1793）建立の小さな石祠がある。西峰の富士山の中腹には浅間神社があり、主祭神は安産や風除けの神「木花咲耶姫命」が祀られている。富士山の由来は①西峰の字名が新里町丙小学富士山であり②山腹に祀られる浅間神社は静岡県富士宮市浅間神社から分霊を勧請したことなどから名が付けられたと言われている。




国本西小のナンキンハゼと藤 [C3]




国本西小校庭にあるナンキンハゼは、中国原産の落葉高樹で日本の北限にあたる大変貴重なもので、当校に在職した著名な植物学者の関本八郎氏が植栽したものである。

「周2.1m・樹高20m・推定樹齢180年以上」。校庭の西側にある藤の木は、姿川の上流にあったものを一区の青年団員が移植したものと伝わる。「周１m・樹高2.5m・樹齢は不明」毎年見事な花を咲かせている。

釜川の源流（東井天沼、西井天沼） [D6・D5]




日光街道を挟んで東西にある弁天沼は釜川の源流で、市街地に残る貴重な自然環境である。東井天沼は約５万年前に田川の流れた跡に沼が形成されたと言われている。また、西井天沼の水源は、日光連山の伏流水によるものといわれる。それぞれの沼周辺には水源を守るため、東井天沼には江戸時代に建立された「水を司る神」市杵島姫命を祀る厳島神社があり、西井天沼には大正13年（1924）建立の水神社が祀られている。

藤本館 （※問い合わせ） [C4]



この館は、西部に新里丘陵の山並みを望むやや小高くなった林の中に位置する。南（110m）・北（73m）・東（90m）の堀と土塁が巡り、堀幅８～10m、深さ約５mである。築造年代は室町時代と考えられる。高橋家は源頼朝の重臣であり、三河地方を治めていたが源氏滅亡と共に三河の地を離れて宇都宮氏の支配下に入ったとの伝承がある。南には高橋家の墓地があるが、ここには歓喜院滝明寺という寺があった。また、土橋沿いに珍木「宝の木」コノテガシワがある。

藤本地区に残る野州人車軌道跡 [B4→C4] [B5→C5→D5]



日光街道を挟んで東西にある弁天沼は釜川の源流で、市街地に残る貴重な自然環境である。東井天沼は約５万年前に田川の流れた跡に沼が形成されたと言われている。また、西井天沼の水源は、日光連山の伏流水によるものといわれる。それぞれの沼周辺には水源を守るため、東井天沼には江戸時代に建立された「水を司る神」市杵島姫命を祀る厳島神社があり、西井天沼には大正13年（1924）建立の水神社が祀られている。

良質な寺沢石の運送を目的として新里村（芳原）から戸祭村までの約8.8km間に、明治32年（1899）「野州人車鉄道」会社が営業を始めた。営業は人力による輸送で、客車は定員６名、車両の大きさは長さ1.8m、石材を運ぶトロッコは長さ1.5mと学習机２個程の小さな車両を車夫２名が交代で押した。その軌道跡が枕木で囲われて藤本地区に残る。北にたどると「ろまんちっく村」のお風呂場を横切っていた。

天王寺遺跡 [A3]



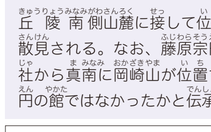
明治の初め頃、廃寺になったと伝えられている。現在でも礎石（鐘撞堂）となっていた大きな石が４個が残る。現在は畑となっているが、寺の入り口と見られるところに歴代住職の墓が並んでいる。この寺は大阪の天王寺より分院されたものと伝えられる。

岩原城堀跡 （※問い合わせ） [D3]



築城は鎌倉時代で宇都宮氏が幕府の有力御家人として活躍し、その勢力拡大の時期と思われる。また、桃山時代の文禄元年（1592）には、城主の永井日向守が長林寺を建て城下町を形成し繁栄を極めていたが、慶長２年（1597）豊臣秀吉の勘気に触れ、宇都宮氏の改易に伴い岩原城も落城した。

大堀館跡１・２号 [C4]



鎧川の西岸に接して立地し、一辺100m余の方形館跡である。館の北側に堀跡が残っており、幅約11m、深さ３mで内側には土塁の跡が見られる。南の道路側にも堀跡があり、大手の土塁と思われる高まりがある。

築造は安土桃山時代と考えられている。館跡は「内出」の屋号を持つ半田家の屋敷となっている。半田家はかつて宇都宮氏の家臣であったと伝承されている。なお、鎧川の東岸には大堀２号館跡がある。

二ヶ山遺跡と坂下遺跡 [C3]



二ヶ山遺跡は、縄文・奈良・平安時代の集落跡で現状は畑である。

国道293に沿って南北にのびる緩やかな南面の台地上に位置し縄文・土師・須恵器片や石鏃（矢じり）が散見されている。また、二ヶ山遺跡西側の低い畑地に坂下遺跡がある。この遺跡から石鏃や縄文土器及び石器類が出土し、現在も表土には土器片が散見される。

岡崎遺跡 [C3]



この遺跡は、古墳時代から平安時代の集落跡で山王日枝神社南方に岡崎山と言われる高さ約1.5mの独立した丘陵があり、遺跡はその北側に位置し、土師・須恵器片が散見される。なお、藤原宗円が勧請した山王日枝神社から真南に岡崎山が位置することから、ここは宗円の館ではなかったと伝承されている。

文化財　神社等　碑
自然・植物・景観　水に関係する　遺跡・跡